**待降節第2主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年12月10日**

**「目からうろこ」**

**サムエル記上3章10節**

**3:10 主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ。」サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております。」**

**使徒言行録９章１節～19節a**

**9:1 さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、**

 **9:2 ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。**

 **9:3 ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。**

 **9:4 サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。**

 **9:5 「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。**

 **9:6 起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」**

 **9:7 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。**

 **9:8 サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。**

 **9:9 サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった。**

 **9:10 ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、「アナニア」と呼びかけると、アナニアは、「主よ、ここにおります」と言った。**

 **9:11 すると、主は言われた。「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。**

 **9:12 アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。」**

 **9:13 しかし、アナニアは答えた。「主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。**

 **9:14 ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。」**

 **9:15 すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。**

 **9:16 わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」**

 **9:17 そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」**

 **9:18 すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、**

 **9:19 食事をして元気を取り戻した。**

**待降節・アドベント第2主日を迎えました。その待降節・アドベント第2主日の説教題**

**を「目からうろこ」としました。教会の前を通り掲示板を見た人は「目からうろこ」と説教題が書かれてあるのを見て、「なんで目からうろこなのだろう」と思ったのではないかなと思います。**

**「目からうろこ」これは正式には「目から鱗が落ちる」ということわざです。私たちは省略して「目からうろこ」と言っています。「目から鱗が落ちる」「目からうろこ」は広く知られたことわざです。私たちが日常生活を送る中で「あ、そうだったのか」と気づかされることがたくさんありますが、そんな時に「それは目からうろこだね」というように使います。**

**そして、この「目から鱗が落ちる」を** 『**広辞苑』で調べてみますと、「(新約聖書の使徒行伝から)あることをきっかけとして、急にものごとの真相や本質がわかるようになる」と書かれてあります。使徒行伝というのは、新共同訳聖書の使徒言行録のことです。「目から鱗が落ちる」というのが、使徒言行録に由来するものだと「広辞苑」にはっきりと書かれているのです。そしてそれはまさに今日の聖書箇所の18節「すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。」からに由来するものなのです。サウロの目からうろこのようなものが落ちた、それが具体的にはどんなものかわかりませんが、サウロの目を覆っていたうろこのようなものが落ちたことでサウロの目が元通りに見えるようになったという出来事に由来するのです。**

**そのことをご存じの方からすればどうってことないのでしょうが、今初めて知ったという方からすれば、「目からうろこ」が聖書に由来することを知ったことが「目からうろこ」なのかもしれません。それは些細な事と言えば些細なことかもしれませんが、サウロの目からうろこが落ちて見えるようになった。これはキリスト教会にとってものすごく大切な出来事なのです。キリスト教会を迫害することに命を懸けていたサウロの目からうろこが落ちて見えるようになってのちに大伝道者パウロになったのです。いったいサウロの目には何が見えるようになったのでしょうか。**

**ステファノの殉教をきっかけにユダヤ教の指導者たちはエルサレムの教会に大迫害を起こしました。その中心的なメンバーの一人がサウロでした。ステファノの殉教の場面に立ち会ったサウロは目に焼き付いたステファノの姿を必死になって消そうとするかのように教会を荒らしました。サウロは迫害の手を緩めません、さらにガリラヤ地方よりも北にあるダマスコに迫害に向かっていました。その途中で天からのまばゆい光がサウロを照らしました。「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」「主よ、あなたはどなたですか」「わたしはあなたが迫害しているイエスである」サウロはイエス様とこのようなやり取りをしたところ、目を開けても目が見えなくなりました。サウロは人々に手を引いてもらってダマスコに到着しました。**

**イエス様はダマスコにいるアナニアという主の弟子に呼びかけて、今祈っているサウロのもとに行くように言われました。サウロが教会にどんなに悪事を働いたかを聞いているアナニアはイエス様の言葉を拒みましたが、イエス様は言われました。**

**「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。**

 **わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」（15.16節）**

**アナニアはイエス様の言葉に従ってサウロのもとを訪ねました。そしてサウロの頭の上に手を置いて「兄弟サウル」と呼びかけました。するとたちまちサウロの目からうろこのようなものが落ちて、元通り見えるようになり、洗礼を受けてキリスト者となったのです。**

**これが、いわゆるサウロの回心と呼ばれる物語です。大迫害者サウロがイエス様に出会って目が見えなくなった。しかし目が見えるようになって洗礼を受けキリスト者となった。そして後に大伝道者パウロとなって異邦人を中心に多くの人をキリストに導き救い出したのです。目からうろこが落ちたサウロが「そうだったのか」、はっと気づいて見えるようになったのは、イエスはキリスト、救い主であるということです。それまでもサウロの目は見えていました。しかしサウロの目にはイエスはキリストであるとは見えなかった。イエスをキリストだと信じる者たちは誤った教えに惑わされている危険な存在だというように見えていたのです。だからこそ憎しみに満ちた目でイエスをキリストだと信じる者たちを捕らえていたのです。**

**そのサウロの目が見えるようになったのです。それは元通りに視力が回復して、イエスはキリストではない危険な存在だというそれまでの誤った目で見るのではなくて、イエスはキリストだ、このお方こそが十字架と復活によってこの私の罪を贖って下さった真の救い主だと見えるようになったのです。それは、いわば信仰の目が見えるようになったのです。信仰の目が見えるようになって真理が見えるようになったのです。**

　**私はサウロの信仰の目が見えるようになったサウロの回心の物語は、これまではイエス様とサウロという両者の関係を中心に読んでいたように思います。イエスとサウロのやり取りの中でサウロの信仰の目が開かれて後に大伝道者となったという「コペルニクス的転換」が起きた、そこに気を取られて読んでいたように思いました。それが、今回改めて読み進めていく中で「アナニア」という人物の存在の大きさに改めて気づかされたのです。イエス様が、目が見えなくなったサウロの所に行くように言われたのがダマスコにいるアナニアです。イエス様はアナニアを通してサウロの信仰の目を開いて下さったのです。このことがとても大切なことだと改めて気づかされました。**

**このアナニアという人物は、この9章の所だけでは彼は主の弟子というだけでどのような人物かわかりません。使徒言行録の中でサウロが自分の回心について語る場面がありますが、その中でアナニアに触れている所があります。22章12節以下（230ページ）です。**

**「ダマスコにはアナニアという人がいました。律法に従って生活する信仰深い人で、そこに住んでいるすべてのユダヤ人の中で評判の良い人でした。**

**22:13 この人がわたしのところに来て、そばに立ってこう言いました。『兄弟サウル、元どおり見えるようになりなさい。』するとそのとき、わたしはその人が見えるようになったのです。**

 **22:14 アナニアは言いました。『わたしたちの先祖の神が、あなたをお選びになった。それは、御心を悟らせ、あの正しい方に会わせて、その口からの声を聞かせるためです。**

 **22:15 あなたは、見聞きしたことについて、すべての人に対してその方の証人となる者だからです。**

 **22:16 今、何をためらっているのです。立ち上がりなさい。その方の名を唱え、洗礼を受けて罪を洗い清めなさい。』」**

**信心深くまわりのユダヤ人から評判の良いアナニアは、父なる神様がサウロを正しいお方であるイエス・キリストの十字架と復活の証人として選ばれたことをイエス様から聞かされて信じたのです。「あの恐ろしいサウロのもとには行けません」ともっともっと抵抗しても良かったはずなのに、アナニアは「行け」とイエス様に言われてすぐにサウロのもとに行きました。イエス様を迫害するサウロのもとに。イエス様を信じる者たちを迫害するサウロのもとに。このアナニアがいなかったらサウロは回心をしていなかったでしょう。もしアナニアがサウロのもとに行くことを拒み続けたら、誰もサウロのもとに行く人がいなくて、サウロの頭に手を置く人もいなければ、サウロの目からうろこが落ちることはなかったでしょう。イエス様はアナニアを用いられたのです。豊かに用いられることでサウロが回心へと導かれたのです。**

　**私はこのアナニアの姿からある一人の人のことが思い浮かびました。それは私を教会へと導いて下さった方のことです。三重県名張市にある名張教会に私を誘って導いて下さった方です。**

**名張教会に通い始めて数か月たって「洗礼を受けたらどう？」と声を掛けて下さる方がちらほらと出てきました。私は「いや～まだ」と言葉を濁していました。当時私は教会は楽しいけどイエス様が救い主であり、この私のために十字架に掛かって死んでくださったということがわかりませんでした。それはいわば目は見えているけど信仰の目は見えていない状態でした。そして、私を教会に誘って下さったその方からも「そろそろ洗礼はどう？」と言われました。私はその方に正直に答えました。「自分はキリスト教だけが正しい宗教だと思えない。世の中にはいろんな宗教があるから、他の宗教のことも勉強したり集会に行ったりしたうえで、キリスト教が一番自分に合っていると思ったら洗礼を受けたい。」というようなことを言いました。**

**するとその方ははっきりと言われました。「西君（私は旧姓が西です）、それは間違っているよ。その考え方は西君の方が神様よりも上になっているよ。西君が神様を選ぶんじゃなくて、神様が西君を選んで教会に導いて下さったんだよ。」私はその方のこの言葉にハッとさせられました。まさに目からうろこでした。私はそのように言われてから真剣に神様を求めるようになりました。だからと言ってすぐに信じることができたわけではありませんが、その方の言葉がなかったら、もしかしたら他の宗教も見てみようとなってキリスト教の大切なことがわからないうちに教会を離れていたかもしれません。私はパウロのような大伝道者ではありませんが、今思えばその方が私にとってのアナニアだったのかなと思います。イエス様はその方を豊かに用いて下さり、本当に小さなこんな私ですがやがてイエス様を救い主と信じる者へとしてくださったのではないかと思います。**

**そして、私がしたような経験って誰もがされているのではないかと思います。私たちの誰もが「私にとってのアナニア」と呼べる人によって教会に導かれたり、その人のおかげで目からうろこが落ちて私たちの信仰の目が開かれてイエス様を信じる者へと導かれた、そういう経験って誰もがされているのではないかと思うのです。私にとってのアナニアと呼べる人がいる、それは教会の交わりなのです。私たちは一人で聖書を読んで、一人で聖書を理解して、イエス様を救い主と信じるようになったのではありません。教会に導かれて、教会の皆さんと共に神様を礼拝し、讃美をし、祈り、御言葉が与えられ、聖書のことが少しずつわかるようになっていくのです。教会の交わりの中で出会いが与えられ、その交わりの中で目からうろこが落ちる経験をして、信仰が与えられて、信仰が育まれていくのです。だからこそ私たちは今与えられている諏訪教会の交わりに感謝をし、大切にしたいと思うのです。**

**互いに愛し合い、互いに祈り合い、互いに支え合っていきましょう。**